# 知のデジタルアーカイブ

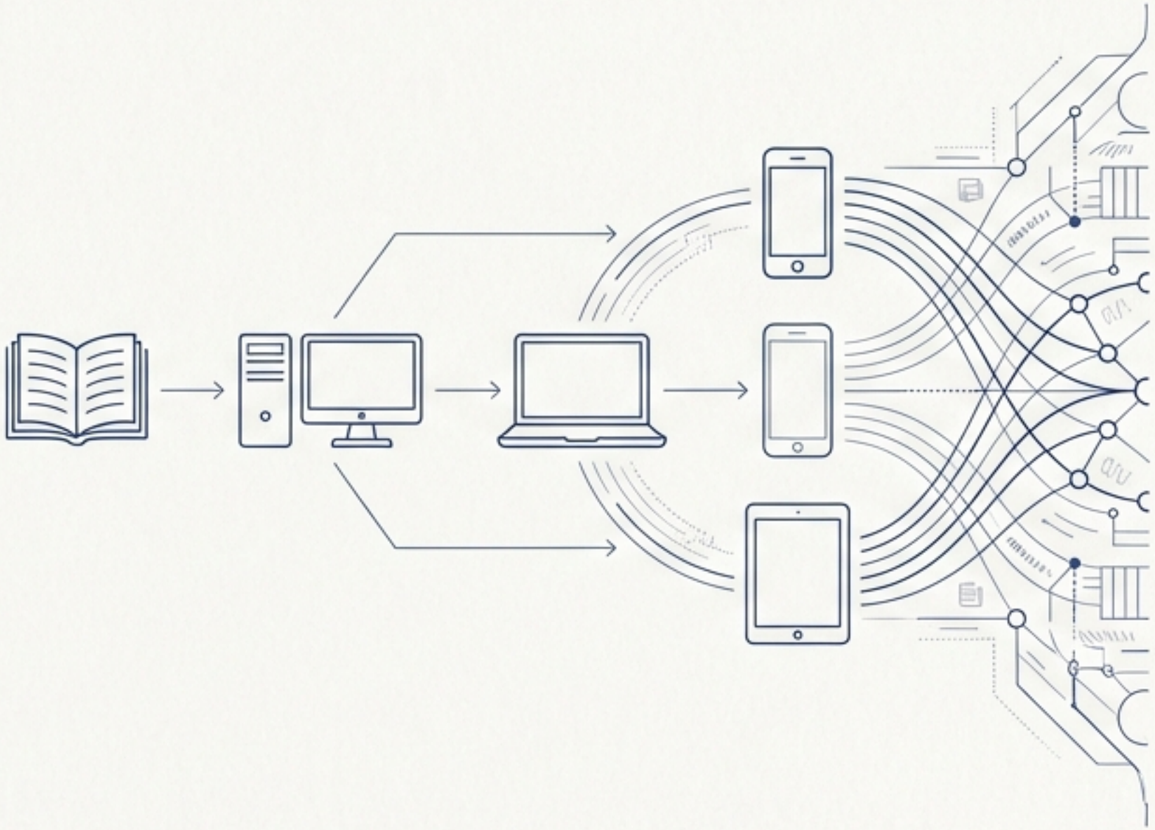
社会の知識インフラの構築に向けて

NotebookLM

# デジタル・ネットワーク社会への不可逆的なシフト

## 我々の情報環境は、ネットワークへの依存を急速に深めている。

- スマートフォンや電子書籍端末の急速な普及がこの動きを加速。
- 知的活動の基盤そのものが、物理的な世界からネットワーク上へと移行しつつある。



NotebookLM

# 新たな「知識インフラ」の構築という好機

ネットワーク上に、過去から蓄積されてきた知的資産へのアクセスを可能にする「知識インフラ」」の構築が重要でである。

**デジタルアーカイブ**は、この新しい知識インフラの**中核をなす可能性**を秘めている。

社会の知識インフラ

NotebookLM

# しかし、その可能性は十分に活かされていない

知的資産のデジタルアーカイブ化は、その有用性が広く認められているにもかかわらず、**期待されるほどには進んでいない**のが現状である。

特に、地域に根差す中小規模の機関において、取組の遅れが顕著になっている。

NotebookLM

# 課題への挑戦：「知のデジタルアーカイブに関する研究会」の発足

Who: 平成23年2月、「知のデジタルアーカイブに関する研究会」が検討を開始。

Purpose: 図書館、博物館・美術館、文書館（MLA）が持つ知的資産の有効. .効活用を進めるため、デジタルアーカイブ構築の推進について議論することを目的とする。

**図書館**　　**博物館・美術館**　　**文書館**

NotebookLM

# デジタル化を阻む、複合的な障壁

研究会は、デジタルアーカイブ化が進まない背景にある、複数の根本的な課題を特定した。

### 財政環境
実行のためのコスト負担

### 人的資源
専門知識を持つ人材の不足

### 技術環境
ノウハウの不足や技術の陳腐化

### 制度的制約
著作権等の権利処理問題（※ただし、本研究会では第一義的な議論対象とはしない）

NotebookLM

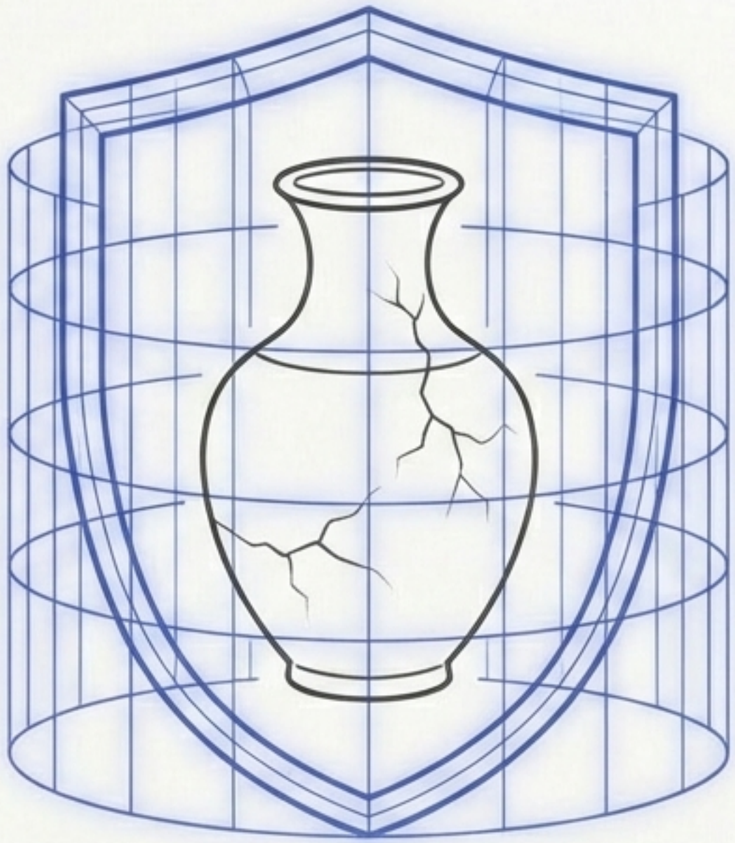
# 東日本大震災という、新たな論点

Context: 研究会の発足直後、東日本大震災が発生。

Shift in Perspective: この未曾有の災害は、デジタルアーカイブの役割に新たな意味を与えた。

1. **震災の記録として**：災害の記憶と教訓を後世に伝える役割。

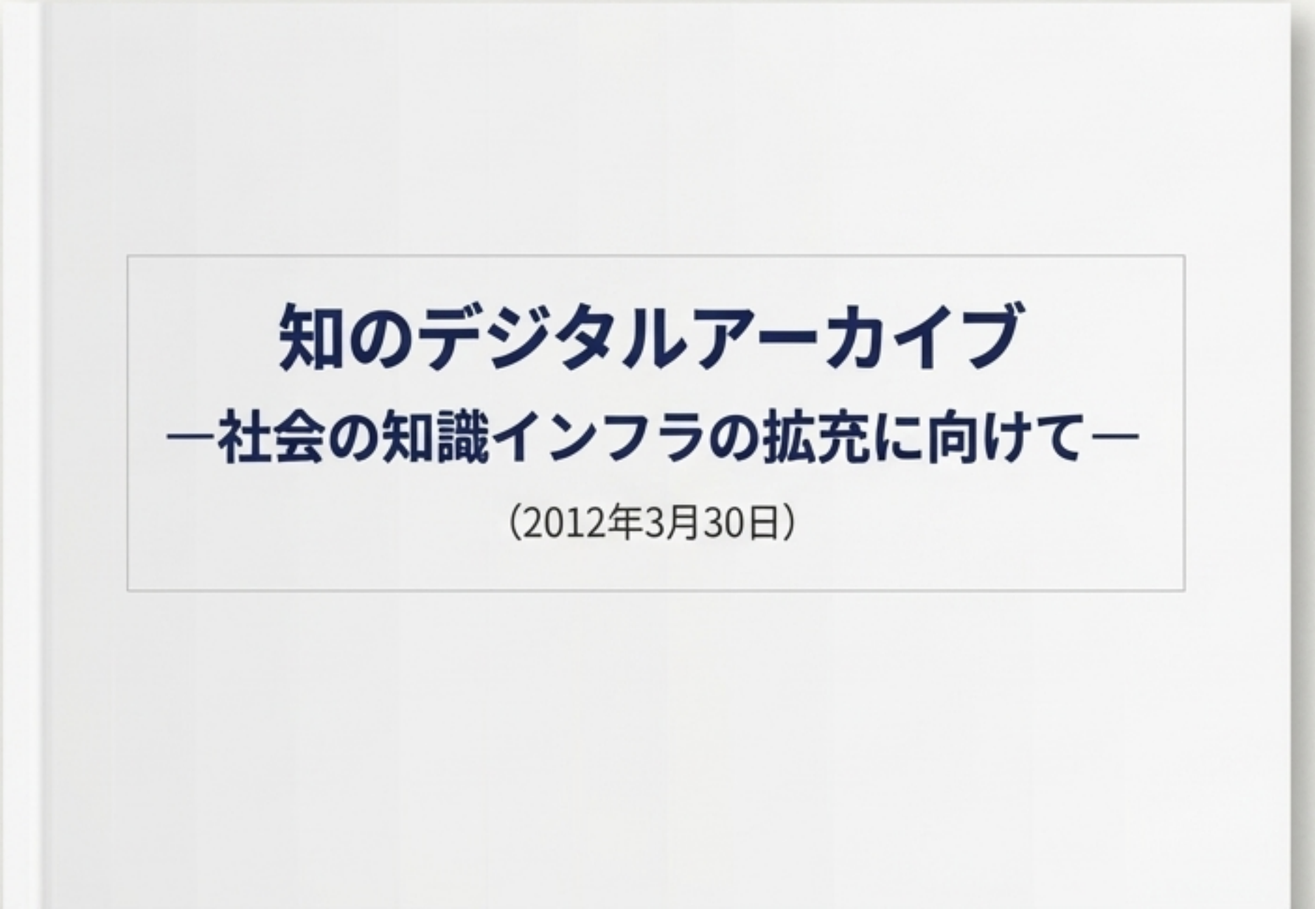
2. **災害に対する備えとして**：物理的な資料が失われるリスクに対する**保全策**としての役割。



NotebookLM

# 知識インフラ構築への設計図：2012年の提言

The Blueprint: 研究会は、外部有識者も交えた議論の成果として、以下の提言をまとめた。




NotebookLM

# 提言を支える3つの戦略的柱

Approach: 研究会は、より掘り下げた深い共通理解を得るため、3つのテーマに焦点を当てたグループを構成して議論を行った。

**1. システム（技術）**
デジタルアーカイブを支える技術基盤。

**2. 人材育成**
専門知識を持ち、継続的に運用できる人材の確保と育成。

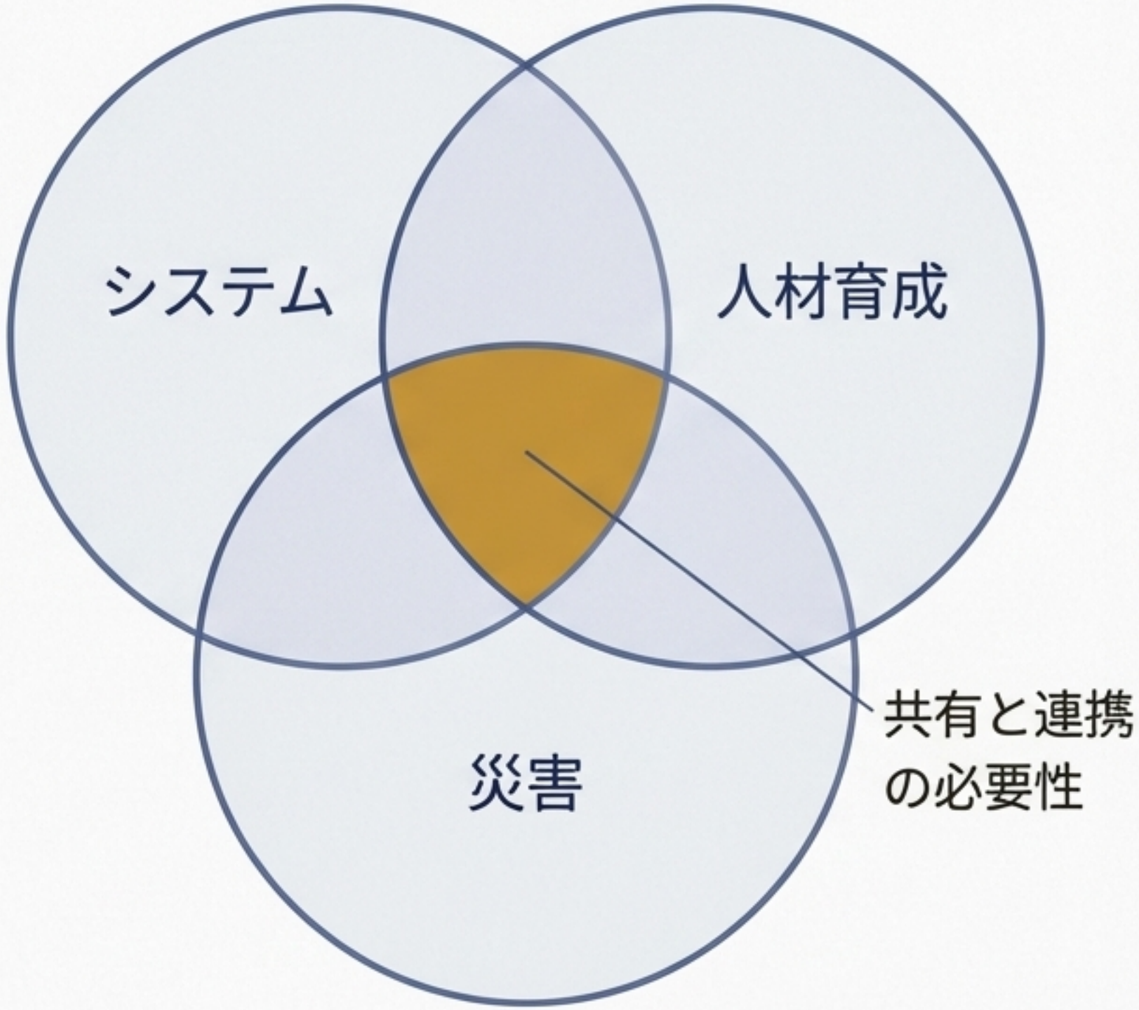
**3. 災害**
災害時の記録保存と、災害への備えとしての役割。

NotebookLM

# 議論から得られた共通認識

**Key Finding:** 3つのテーマ（システム、人材、災害）を横断する議論を通じて、以下の重要性についての共通認識が形成された。

- デジタルアーカイブのための**技術、知識、ノウハウの共有**の重要性。
- デジタル・ネットワーク社会に適合した**デジタルアーカイブ連携**の必要性。




NotebookLM

# すべてを繋ぐキーストーン：MLA連携

## The Unifying Principle

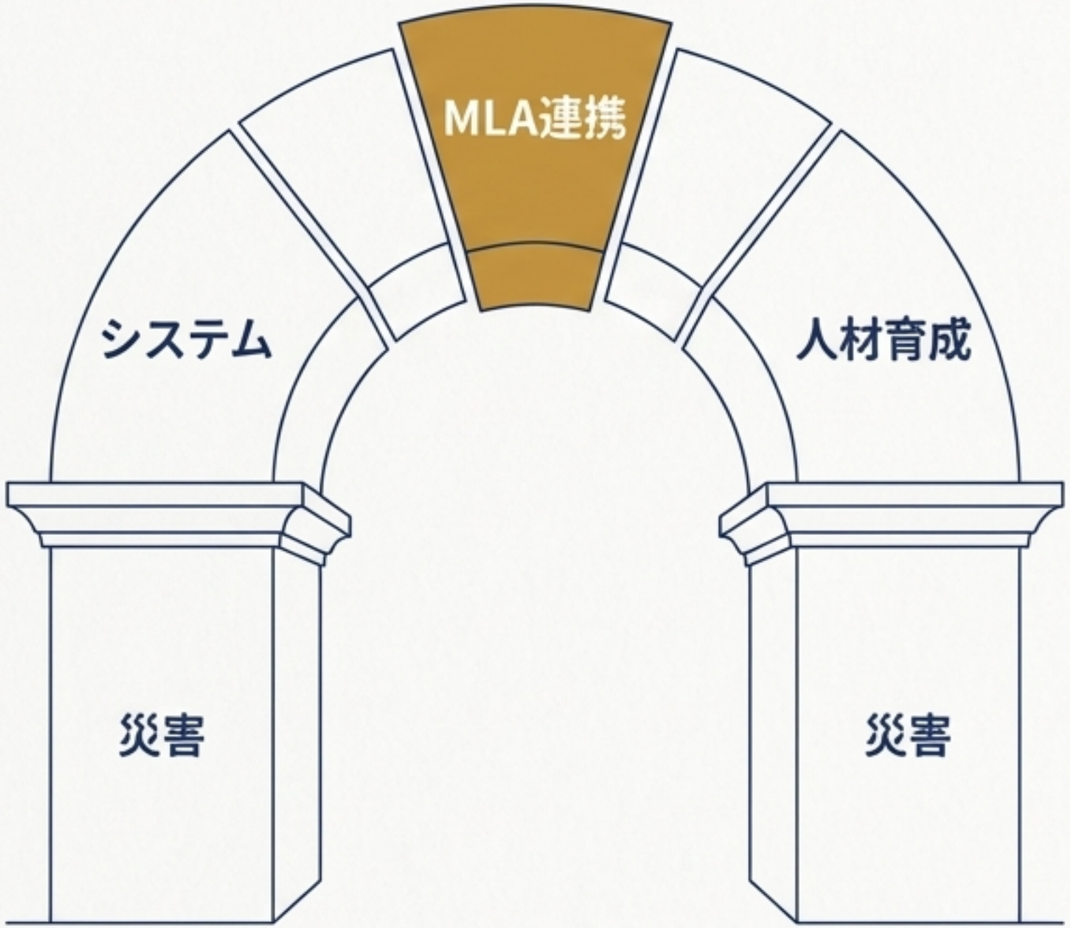
3つの柱を個別に進めるだけでは不十分である。
それらを統合し、効果を最大化するのが**「連携」**である。

## Definition

特に、**MLA連携**（博物館 Museum, 図書館 Library, 文書館 Archive の連携）が、知的資産の利用の高度化と、機関間連携の推進における中心的な課題として議論された。

## Target

これらの「知の記録機関 (Memory Institution)」が持つ知的資産へのネットワークを介したアクセス性を高めることが主眼。




NotebookLM

# なぜ「連携」が不可欠なのか？

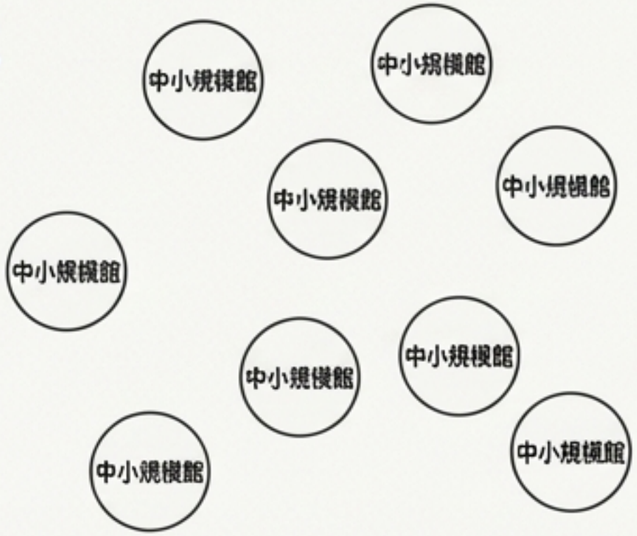
The Challenge Revisited: 国立国会図書館のような大規模な取り組みが進む一方、中小規模館の多くはコストストと人的資源の不足により、取り組みが進んでいない。

The Solution: MLA連携は、この「格差」を乗り越えるための鍵となる。

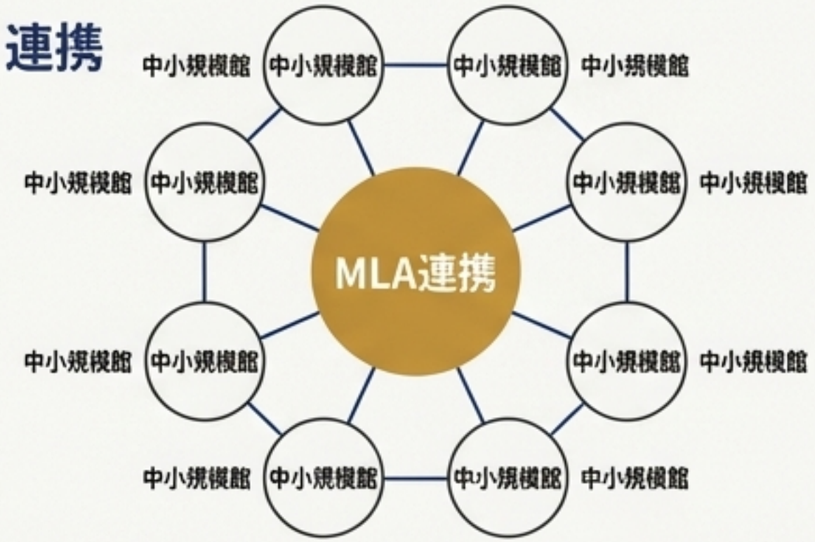
Benefits of Collaboration:

- 技術、知識、ノウハウの共有によるコストと負担の軽減。
- 個々の機関では実現不可能な、大規模で相互利用可能なアーカイブの構築。
- 利用者にとっての利便性の飛躍的な向上。

Before: 孤立




After: 連携




NotebookLM

# 究極の目標：豊かで強靭な「社会の知識インフラ」の実現

公共的な知的資産（図書・出版物、公文書、美術品・博物品、歴史資料等）の総デジタル化を進め、誰もがインターネット上で共有・利用できる仕組みを構築する。

- あらゆる知的資産へのアクセスが可能になる。
- 「知の地域づくり」が促進される。
- 災害にも強い、永続的な知識基盤が社会を支える。

NotebookLM

# 我々の現在地、そして未来への課題

Call to Reflection: 2012年の提言は、未来への出発点を示した。今、私たちはその進捗と現状を問い直す必要がある。

> **研究課題 (Research Assignment):**
> **知のデジタルアーカイブの提言を受けて博物館・図書館・公文書館の現状と課題について論述しなさい。**

NotebookLM

# 参考文献

知のデジタルアーカイブに関する研究会：知のデジタルアーカイブ
―社会の知識インフラの拡充に向けて―（2012年3月30日）

NotebookLM